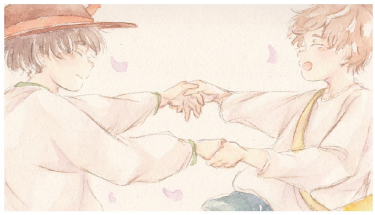
松本　佳奈子
MATSUMOTO Kanako

またあした

透明水彩、水彩色鉛筆、バフン紙、手描きアニメーション



またあした

次々と新しい技術が発展し続ける今、透明水彩もパソコン上で精彩に再現できるようになった。しかし一方で、絵の具を使った作画行為にはそれでしか得られない表現があり、手仕事における新たな可能性もまだ多く秘められているように思う。私はそんな従来の透明水彩の魅力を改めて見直すとともに、アニメーションという水彩ではあまり見られない形をとることで、透明水彩の表現の場を広げたいと考えた。

この作品は、透明水彩に加えバフン紙・水彩色鉛筆を使用している。下の素材がより生きる水彩は、使う画材ごとにそれぞれ違ったテクスチャが現れるのもその特徴の一つだ。バフン紙の質感は水彩の滲み・色味とマッチして暖かみをより際立たせ、水彩色鉛筆は水に溶ける性質から絵の具の着彩に溶け込み、柔らかさを保ってくれる。その素材感は紙の存在を視覚的に感じさせてくれるものでもあるが、直に触れて試行錯誤していく中で、思いがけない効果を見つけられる経験の豊かさも手仕事の魅力の一つだと実感した。

また物語では、水彩の柔らかい印象を活かせるようなものを考案した。毎日遊ぶ約束をしている男の子と狸のお話は、小さな変化が起き、また同じ日常へと戻っていく。身近なものの温もりと登場人物の形のない感情の表現は、人の手を感じられる塗り残しや定まった形をもたない滲みを使った、水彩ならではの手法を用いて表現した。そしてアニメーションになることでランダムな滲みは絶えず動き、そこに流れている時間と存在する空気までも感じさせてくれるように見える。

『またあした』は一枚一枚手作業で水彩の色を塗って生まれたアニメーションだ。制作する中で筆や紙に触れ、絵の具のにじみを指先で感じたことは、ささやかでも描いたそれぞれ一枚に影響を与えているのではないかと思う。利便性や先進性を追求した新しい技術に囲まれている今だからこそ、改めて手仕事という昔ながらの暖かさを感じ、時代が進んでもこの素朴な魅力は心の中に残り続けてほしい。